

セミナーの
目的

身近な製品の誤使用とその防止法の具体的な例について学習した後、安全の概念、技術、ヒューマンファクタ、社会規範・法制度等を通じて、製品安全における消費者の権利、製品のリスクアセスメント等、多面的に製品の安全確保の方策を紹介する。

受講をお薦めする方

企業および官公庁の安全関係者（製品設計者、安全管理者、経営者、法規・企画担当者、安全評価関係者等）から安全を学習する大学院生・学生や安全に興味を持つ一般の方々まで、広く受講されることを期待している。

* 法人会員料金は、「リバティアカデミー法人会員」にご入会いただいている企業の方の料金です。

法人会員制度 → 13頁

講座概要

コーディネータ	向殿政男 明治大学理工学部教授
曜日	土曜日
会場	リバティタワー教室
時間	10:40～14:30
定員	50名
回数	8回
受講料	5,000円（一般） 4,500円（法人*）
教材	オリジナルレジュメ
ポイント	★

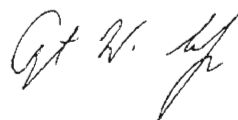
Greetings from Underwriters Laboratories Inc;

Underwriters Laboratories Inc, or "UL", is a US headquartered company that is focused on product safety. It is well known to Japanese companies who export their products to the USA, especially manufacturers of electrical and electronic devices. UL Japan, with offices in Ise, Tokyo and Yokohama, is a wholly owned subsidiary of UL that offers product safety testing and certification, EMC measurement and other services to help manufacturers access global markets, including the USA and Japan.

UL was established in Chicago in 1894 and has been working for a safer world for more than 100 years. Its corporate mission is "to promote safe living and working environments for people, through the application of safety science and hazard based safety engineering", and to achieve it UL develops product safety standards, conducts safety testing and certifies products for safety. UL also endeavors to educate the general public, including young children, about safety.

With the support from Meiji University, Underwriters Laboratories Family is again honored to donate to Safenology classes consistent with its corporate mission of promoting public safety and wishes that the class contributes to building a safer society.

Best regards,



August W. Schaefer
Sr. Vice President & Public Safety Officer



**Underwriters
Laboratories**

ULからのご挨拶

Underwriters Laboratories IncことULは、公共安全に注力する米国の組織で、同国に製品を輸出される日本企業、特に電気・電子機器の製造業者の皆様に広く知られています。ULの100%子会社であるUL Japanは、伊勢、東京、横浜に主要事業所を設け、主に製品安全試験・認証、EMC測定などのサービスを通じて、日本のお客様が米国・日本のみならず世界中の市場に製品を出荷されるお手伝いを提供しております。

1894年にシカゴに設立されたULは、すでに100年以上に亘り、世界をより安全な場所にするための活動を続けています。ULのミッションは、「安全科学と危険に基づく安全工学（safety science and hazard based safety engineering）を適用することにより、人々の安全な生活・職場環境を推

進する」となっており、このミッション達成を目指して、主に製品安全規格の開発、製品安全試験、適合認証書の発行などの業務を提供しております。また、児童を含む一般市民を対象に安全に関する啓発活動にも積極的に取り組んでいます。

この度、明治大学殿のご支持を得て、公共安全の推進という弊社のミッションを体現する安全学の講座に協力させていただくことになり、誠に光栄に存じます。この講座がより安全な社会の構築に役立つことを切に祈っております。

敬具

オーガスト W シェーファー
上級副社長兼公共安全担当役員

セミナーの内容

回数	日程	内容	講師
1	9月26日 (土)	製品の誤使用 (1) 製品事故のうち「使用方法等が原因で事故となったもの」は誤使用の事故といわれ、死亡事故、重傷事故につながりやすく、子ども、高齢者などが被害者になりやすい。使う側の視点で実際に発生した事故から、製品の誤使用を考察する。	長 田
2		製品の誤使用 (2) 誤使用の事故を防ぐのは、誰か。欧州の安全規制、ISO/IECガイド51の制定の経緯、社会的に許容される安全とは。リスク低減の順位・方法、組織のあり方など、作る側が配慮すべきことは何か。誤使用はいかにしたらなくなるのか考える。	
3	10月3日 (土)	安全学から見た製品安全 安全学とは、安全について技術、人間、組織等の側面から領域横断的に、包括的に眺める新しい学問である。本講座では、製品安全について、安全学の視点から幅広く、その特徴と課題等について考察する。	向 殿
4		製品の認証について 消費生活用製品の安全性確保のためには、製造メーカーの責任と共に流通事業者と消費者の役割も重要である。このとき、製品の安全認証や安全マークの果たす役割が極めて大きい。本講義では、世界の製品安全認証を紹介しつつ認証制度の役割について考える。	阿 部
5	10月10日 (土)	安全管理と保証 (1) 安全管理はどのように行われるのか。また、安全確保と保証の関係はどのように考えればよいのか。現在の法制度とともに考える。(1)では事故を起こさないため(ビフォー)の製品安全確保策について明らかにする。	高 杉
6		安全管理と保証 (2) 安全管理はどのように行われるのか。また、安全確保と保証の関係はどのように考えればよいのか。現在の法制度とともに考える。(2)では事故が発生してしまった場合(アフター)の製品安全確保策について明らかにする。なお、今後の課題等について整理する。	
7	10月17日 (土)	製品のリスクアセスメント (1) 安全の概念は、緩やかであるが時代と共に変化してきている。現在は、強制的な技術基準への適合から、製品の安全性を企業が自主的に評価し、第三者に安全であることを説明できるようにするリスクアセスメントの導入が加速されている。	松 本
8		製品のリスクアセスメント (2) リスクアセスメント手法としてのR-Map(リスクマップ、またはアールマップ)を使用して、社会が求める安全レベルまでリスクを低減する方法について理解し、実際に発生した製品事故のリスク評価を実施する。	

コーディネーター・講師紹介



むかいどの まさお
向 殿 政男 明治大学理工学部教授

明治大学大学院工学研究科博士課程修了。工学博士。専門は、フuzzy (あいまいの科学) 理論、人工知能、機械安全。工学博士。元日本フuzzy学会会長、元日本信頼性学会会長。現在、安全技術応用研究会会長、日本学会議連携会員。私立大学情報教育協会会長。



ながた ましと
長田 敏 製品評価技術基盤機構 (NITE)
製品安全センター参事官

NITEが02~05年度に収集調査した情報によって誤使用事故と年齢等の関係を分析。05年度には消費者向けと事業者向けの2つの誤使用事故防止ハンドブックを作成。また、07年度には我が国の製品安全基準の整備のあり方、08年度にはおしゃれ用カラーコンタクトレンズの安全性のあり方を提言。09年度NITE製品安全センターのテレビ・新聞報道などを担当。



あべ ゆうじ
阿部 勇治 株式会社UL Japan 製品認証部・部長

事務機器メーカーで国内外の電気製品安全認証取得を担当後、電気製品安全認証取得代行サービス会社勤務を経て、USAを拠点にグローバルに製品安全認証を展開するULの、日本に於ける活動拠点であるUL Japanで国内外の電気製品安全認証発行業務を立ち上げ、現在は同社の製品認証部長。



たかすぎ かずのり
高杉 和徳 製品安全コンサルタント
NITE技術顧問

㈱東芝・DM社の製品安全専門家を経て現職。㈱家電製品協会、㈱電子情報技術産業協会等の製品安全、品質マネジメントシステム、適合性評価システム等の委員長、主査等を歴任。日本工業標準調査会・適合性評価部会、JNLA電気分科会、JIS原案作成委員会、電気用品調査委員会・部会委員等を歴任し、家電製品の基準・認証制度の創設・運営に従事。



まつもと こうじ
松本 浩二 製品安全コンサルタント
NITE技術顧問

㈱東芝入社後、医療機器部門において製品開発業務に従事。その後、PS (製品安全) 専門家として社内PSマネジメントシステム構築、PSレビュー業務を担当。退職後は、企業のコンサルタント及びNITE技術顧問。専門は、リスクアセスメント及び評価・対策技術としてのR-Map手法の研究と実践。㈱日科技連R-Map実践研究会統括主査。

この講座のお申込は、「電話」「FAX」「メール」での受付となります。ホームページからの「オンライン申込」はご利用いただけませんのでご了承ください。

☎ 電話 03-3296-4423 ☎ FAX 03-3296-4542 ✉ メール academy@mics.meiji.ac.jp

入会・受講申込FAXフォーム(個人会員用)

法人会員のご入会については、お電話にて「法人会員案内」をご請求ください。

FAX 03-3296-4542 (TEL 03-3296-4423)

① 始めて入会・受講の方 ⇨ 1. 新規入会 に○印をして、①講座受講申込欄 + ②入会申込欄 を記入

② 過去に会員であった方 ⇨ 2. 再入会 に○印をして、①講座受講申込欄 + ②入会申込欄 を記入

*会員更新は、会員期間内(3月末日)のみ手続き可能です。会員期間を過ぎた場合(4月1日以降)は、再入会になります。

③ 既リバティアカデミー会員の方 ⇨ ①講座受講申込欄 のみ記入

① 講座受講申込欄

会員情報 ※既リバティアカデミー会員の方のみ記入してください。

会員番号	氏名	電話番号

お申込講座

NO	講座コード	講座名
1		
2		
3		

割引|特典申告欄 該当項目の数字を○印で囲み、必要事項を記入してください。お申し込みの際に申告のない場合、割引特典は受けられません。

1. 明治大学カード会員 カードブランド: UCカード DCカード NICOSカード
三井住友カード JCBカード
2. 学生・生徒 [学校名: _____ / 学部学科・学年 _____]
3. 明治大学教職員 [所 属: _____]
4. リバティアカデミー特別会員(明治大学120周年募金に協力し、特別会員証を授与された方)
5. 福利厚生倶楽部会員、CLUB CCI会員、ふるむな倶楽部会員、Club Off Alliance
6. ベネフィット・ステーション会員

② 入会申込欄

該当項目について数字を○印で囲んでください。

1. 新規入会 2. 再入会

私は、「リバティアカデミー入会と受講のご案内」(p76、77)を確認し同意したので、入会を申し込みます。

フリガナ 氏 名			再入会の方: 旧会員番号	
連絡先 <input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> 勤務先	住 所	〒		
	電 話		F A X	
	携帯電話		Eメールアドレス	
性 別	男 ・ 女	生年月日(西暦)	年	月 日
勤務先名	所 属 部 課		役 職	
学 校 名	学 部 ・ 学 科		学 年	

ご自身にあてはまる項目について、数字を○印で囲んでください。

- ご 職 業 1.大学生・大学院生 2.専門学校生 3.会社員 4.会社経営・自営 5.学校/医療・福祉関係 6.公務員
7.専門職(会計士等) 8.アルバイト・派遣社員 9.主婦 10.無職 11.その他

ご興味・ご関心のある分野について、数字を○印で囲んでください。(3つまで)。

- 1.考古学 2.日本史 3.博物館 4.世界史 5.音楽 6.絵画 7.文章表現・創作 8.日本文学 9.映画・写真
10.外国文学 11.伝統文化 12.福祉・介護 13.教育心理学 14.環境 15.バイオ・食物 16.外国語会話
17.旅行 18.NGO・NPO 19.政治・行政 20.経営 21.財務・金融 22.組織・人事 23.法律・法務
24.マーケティング 25.IT・情報 26.中小企業経営 27.MBA 28.起業・ベンチャー 29.資格取得
30.その他()

※入会だけのお申込はできません。必ず「①講座受講申込欄」をご記入ください。